提言10

多文化共生をすすめる外国語教育を！

- 小学校中学年への外国語活動、高学年への外国語科導入にともなう時数増は、子どもの負担をいたずらに増やすことにしかなりません。短時間学習や土曜日の活用、長期休業中の学習による時数確保は、学校に過度の負担を強いることは間違いありません。こうした問題点の認識を広く共有していくことも大切でしょう。

- 現代日本では、グローバル化する世界の中で、すべての子どもに英語の能力が必要となるという論調で英語教育が推進されています。外国語教育は、英語に特化されるべきではありません。言語技能の習得にとどまらず、多文化共生につながる異文化理解をめざしていきましょう。また、外国につながる子どもたちの母語・母文化を保障していくことが必要でしょう。

- 中学校・高等学校の英語教育では、英検・TOEFL・iBT® の資格取得など、子どもの実態に配慮しているとは思えない目標が定められています。私たちは、多様な子どもの実情に配慮することが責務であることを改めて主張していきましょう。